

## 2.4 鳥類調査

### 2.4.1 調査概要

鳥類調査は表 2.4.1.1 に示す日程で実施した。

表 2.4.1.1 鳥類調査の実施日

平成 28 年度春季	平成 28 年 5 月 23 日
夏季	平成 28 年 8 月 3 日
秋季	平成 28 年 10 月 3 日
冬季	平成 29 年 1 月 10 日
平成 29 年度春季	平成 29 年 5 月 10 日
夏季	平成 29 年 8 月 9 日

### 2.4.2 種類数及び個体数

鳥類調査結果は表 2.4.2.1、図 2.4.2.1(1)～(5)のとおりであった。

平成 28 年度春季は 22 種、夏季は 25 種、秋季は 26 種、冬季は 33 種、平成 29 年度春季は 25 種類、夏季は 19 種、合計 48 種の鳥類が確認された。

渡り区分で見ると、平成 28 年度では、春季には留鳥が 14 種と最も多く、その他、夏鳥が 3 種、冬鳥 2 種、旅鳥 2 種、家禽類が 1 種であった。夏季には留鳥が 19 種と最も多く、その他、夏鳥 2 種、冬鳥 2 種、旅鳥 1 種、家禽類 1 種であった。秋季は留鳥が 19 種と最も多く、その他、夏鳥 1 種、冬鳥 5 種、旅鳥 1 種、家禽類は確認されなかった。冬季は留鳥が 18 種と最も多く、その他、冬鳥 14 種、家禽類 1 種で、夏鳥、旅鳥は確認されなかった。平成 29 年度では、春季には留鳥が 17 種、その他夏鳥 1 種、冬鳥 4 種、旅鳥 2 種、家禽類 1 種であった。夏季には留鳥が 16 種、その他夏鳥 1 種、冬鳥 2 種で、旅鳥、家禽類は確認されなかった。

合計確認個体数は、平成 28 年度は春季 92 個体、夏季 306 個体、秋季 1435 個体、冬季 3849 個体、平成 29 年度は春季 119 個体、夏季 217 個体であった。

平成 28 年度春季はハシボソガラスが 27 個体と最も多く、次いでカワウが 14 個体であった。

平成 28 年度夏季はウミネコの 194 個体の群れが確認されたほか、コサギ 30 個体、カワウ 29 個体等が多かった。

平成 28 年度秋季はウミネコの 1192 個体の大きな群れが確認されたほか、カルガモ 53 個体、スズメ 52 個体等が多かった。

平成 28 年度冬季はカワウ 3003 個体の大きな群れが海上を移動したほか、ユリカモメ 299 個体、ホシハジロ 192 個体、オナガガモ 71 個体、カルガモ 57 個体、スズガモ 38 個体等、主に冬鳥の越冬個体群が多く確認された。

平成 29 年度春季はハシブトガラスが 28 個体と最も多く、次いでチュウシャクシギが 11 個体であった。

平成 29 年度夏季はウミネコの 52 個体の群れが確認されたほか、カワウ 45 個体、ハシボソガラス 33 個体、ツバメ 15 個体等が多かった。

表 2.4.2.1 鳥類調査結果

No.	目	科	種名	渡り区分 注1	H28年 5月	H28年 8月	H28年 10月	H29年 1月	H29年 5月	H29年 8月	天然 注①	希少 注③	環境省 RL注④	三重県 RDB 注⑤	近畿RDB 注⑥
1	カモ目	カモ科	マカモ	冬鳥				12							
2			カルガモ	留鳥	4	3	53	57	2	8					
3			オナガガモ	冬鳥			10	71							
4			コカモ	冬鳥				3							
5			ホシハシロ	冬鳥	2	3		192	4	2					
6			キンクロハシロ	冬鳥	2	1	1	20	2						
7			スサガモ	冬鳥			14	38	9	1					
8			ウミアサ	冬鳥				2							越冬個体群) 準絶滅危惧
9	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			1								
10			カンムリカイツブリ	冬鳥				10							
11			ハシロカイツブリ	冬鳥				1							
12	ハト目	ハト科	カラバト(ドバト)	家禽類	1	1		2	6						
13			キシハト	留鳥	1	2	1	1	1	1					
14	カウボウ目	ウ科	カウ	留鳥	14	29	17	3003	9	45					
15	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	留鳥				2		1					
16			アオサギ	留鳥		3	4	1	1	6					
17			ダイサギ	留鳥	3	2	8		4	12					
18			チュウサギ	留鳥		2			2			NT	VU		繁殖個体群) 準絶滅危惧
19			ヨサギ	留鳥	1	30	11	5	9	12					
20	ツル目	クイナ科	オオバン	冬鳥				1	1						
21	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥	2	1	1						NT		繁殖個体群) 準絶滅危惧
22			シロチドリ	留鳥			14		1				VU	CR(繁殖) NT(越冬)	繁殖個体群) 準絶滅危惧
23		ミヤコトリ科	ミヤコトリ	冬鳥				20				NT	NT		
24		シギ科	チュウシギ	旅鳥	5				11						通過個体群) 準絶滅危惧
25			キアシシギ	旅鳥	5	1			3						通過個体群) 準絶滅危惧
26			ツリハシギ	旅鳥			2								通過個体群) 準絶滅危惧
27			イソシギ	留鳥	2	2	4	1		2					繁殖個体群) 準絶滅危惧
28		カモ科	ユリカモメ	冬鳥			9	299							
29			ウネコ	留鳥		194	1192	18		52					
30			カモメ	冬鳥				44							
31			セグロカモメ	冬鳥			4	9							
32	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥			2	1		1			NT	NT(繁殖) VU(越冬)	繁殖個体群) 絶滅危惧
33	ブッポウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥		1				1					繁殖個体群) 準絶滅危惧
34	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥					2				VU	CR(繁殖) EN(越冬)	繁殖個体群) 準絶滅危惧
35	スズメ目	モズ科	モズ	留鳥			1	2							
36		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	27	9	14	14	6	33					
37			ハシブトガラス	留鳥	1		1		28						
38		ヒバリ科	ヒバリ	留鳥	2	3	5		2						
39		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	5	9			2	15					
40		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥		2	1	4							
41		オシキリ科	オオオシキリ	夏鳥	1										繁殖個体群) 準絶滅危惧
42		セッカ科	セッカ	留鳥		1									
43		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	2		7	2	5	1					
44		スズメ科	スズメ	留鳥	3	3	52	2	2	14					
45		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥		1	6	5	5	2					
46			セグロセキレイ	留鳥	4	1		1	1	8					
47		アトリ科	カラヒワ	留鳥	4	1		4	1						
48		ホシジロ科	ホシジロ	留鳥	1	1		2							
種別数					22	25	26	33	25	19	0	0	5	6	12
合計					92	306	1435	3849	119	217					

注①渡り区分

渡り区分は「三重県における鳥類分布・生息に関する報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課、1987)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した。

留鳥:一年中見ることができる種

夏鳥:繁殖のために渡来する種

冬鳥:越冬のために渡来する種

旅鳥:春秋の渡り期に定期的に渡来する種

家禽類:飼育鳥が逃げ出して野生化した種

②「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号、1950年8月施行)により地域を定めずに天然記念物に選定されている種および亜種

③「絶滅の恐れのある野生動物の種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号、1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種

I:国内希少野生動物種

II:国際希少野生動物種

④「環境省レッドリスト2017」に記載されている種及び亜種

VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

⑤「三重県レッドデータブック2015 -三重県の絶滅のおそれのある野生生物-(三重県農林水産課みどり共生推進課、2015年3月)に記載されている種及び亜種

CR:絶滅危惧IA類

EN:絶滅危惧IB類

VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

⑥「近畿地区・鳥類レッドデータブック -絶滅危惧種判定システムの開発(京都大学学術出版会、山岸哲慎習、2002年)」に記載されている種ただし繁殖個体群が指定されている場合、繁殖期に出現していなければ該当しない。

表中重要種は■の網掛けで示した

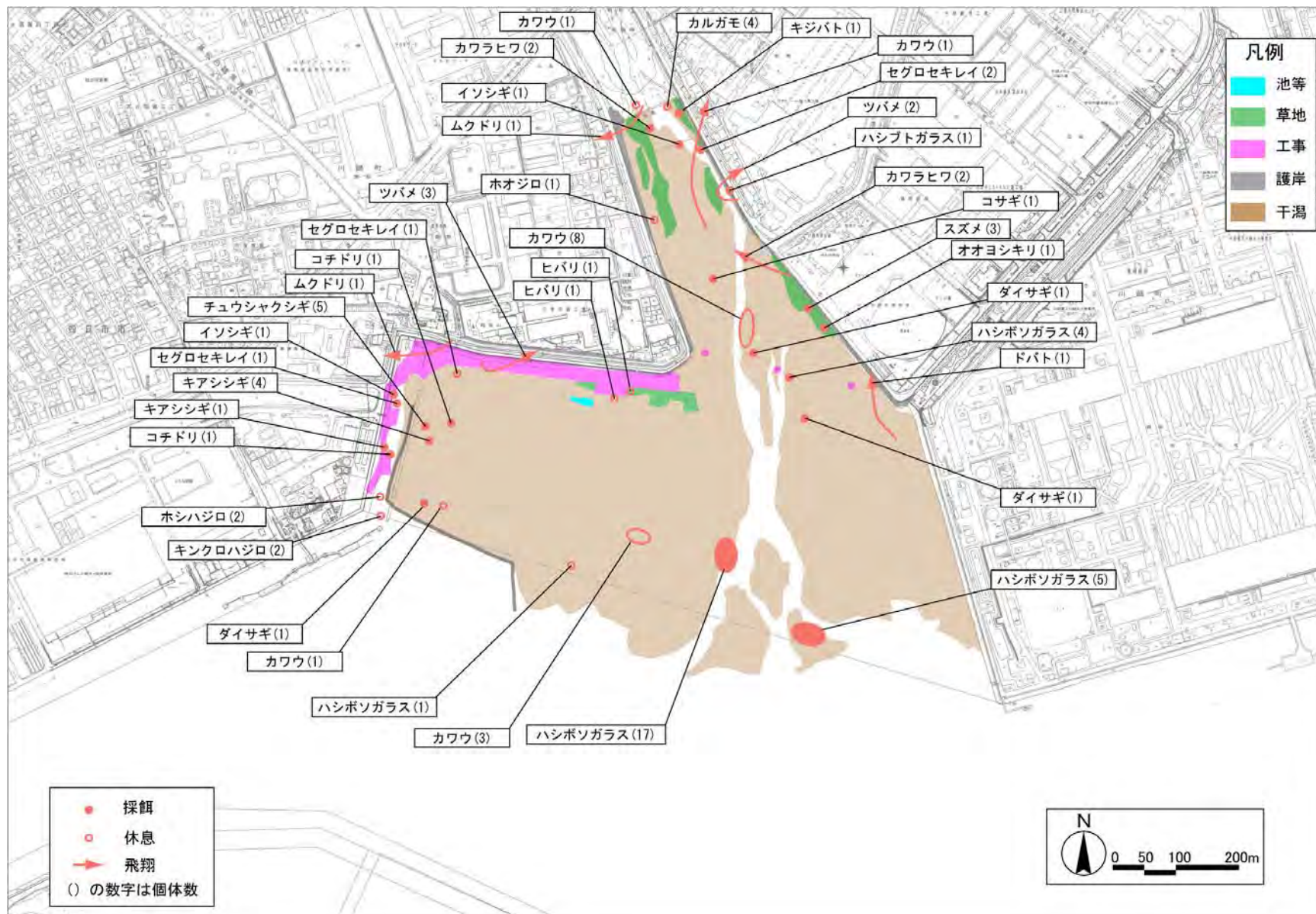


図 2.4.2.1(1) 鳥類確認位置 (平成 28 年度春季)

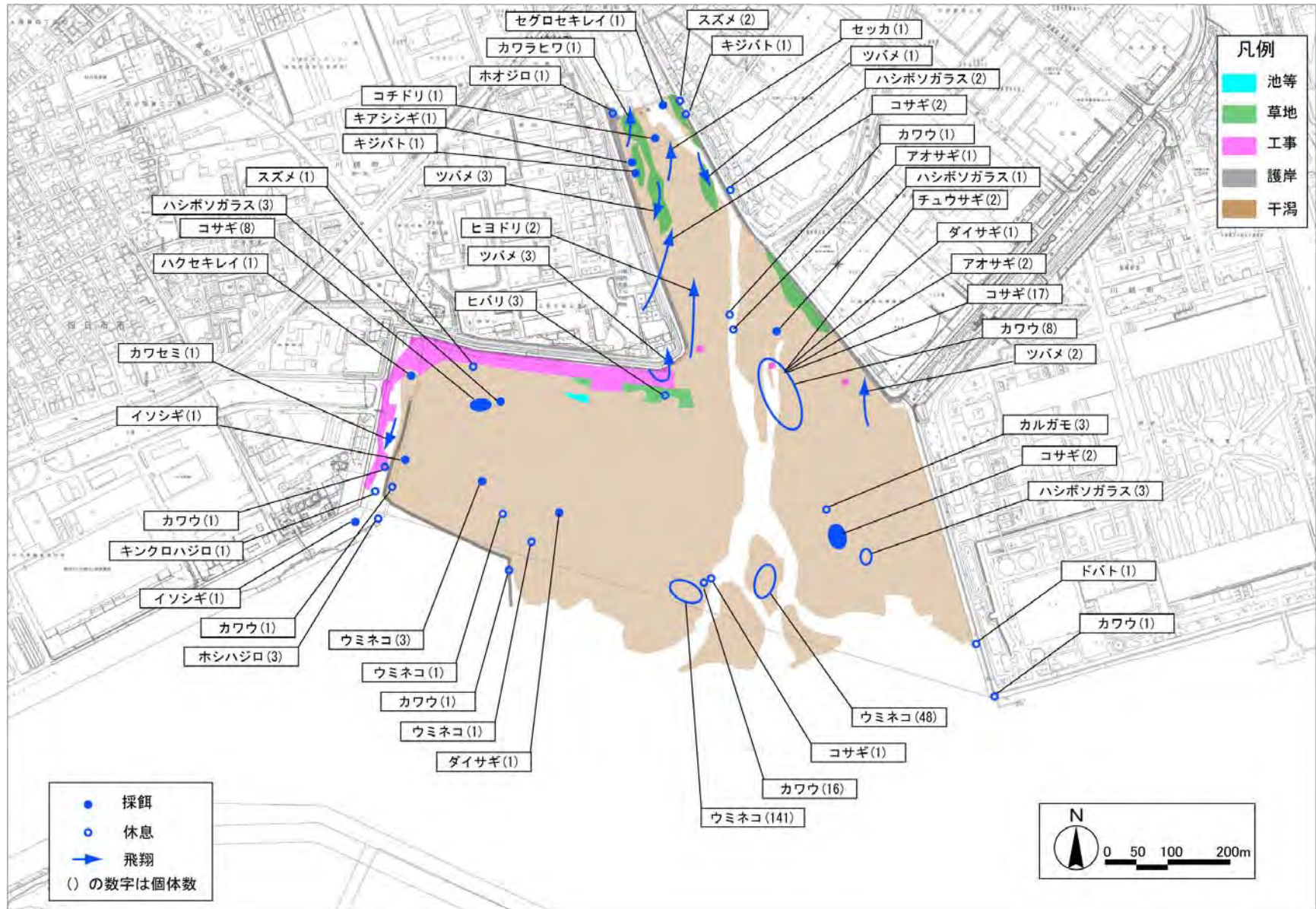


図 2.4.2.1 (2) 鳥類確認位置 (平成 28 年度夏季)

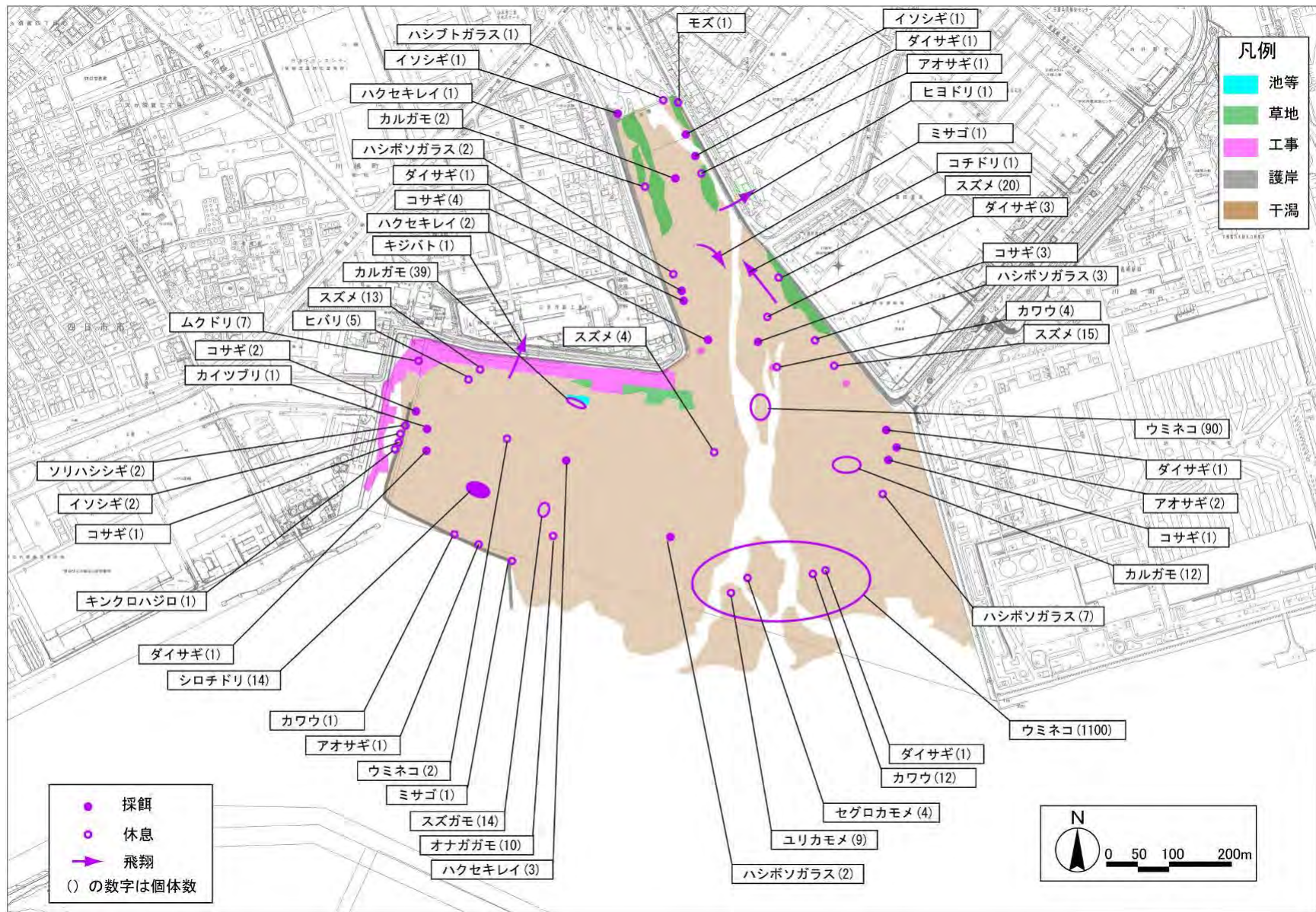


図 2. 4. 2. 1 (3) 鳥類確認位置 (平成 28 年度秋季)

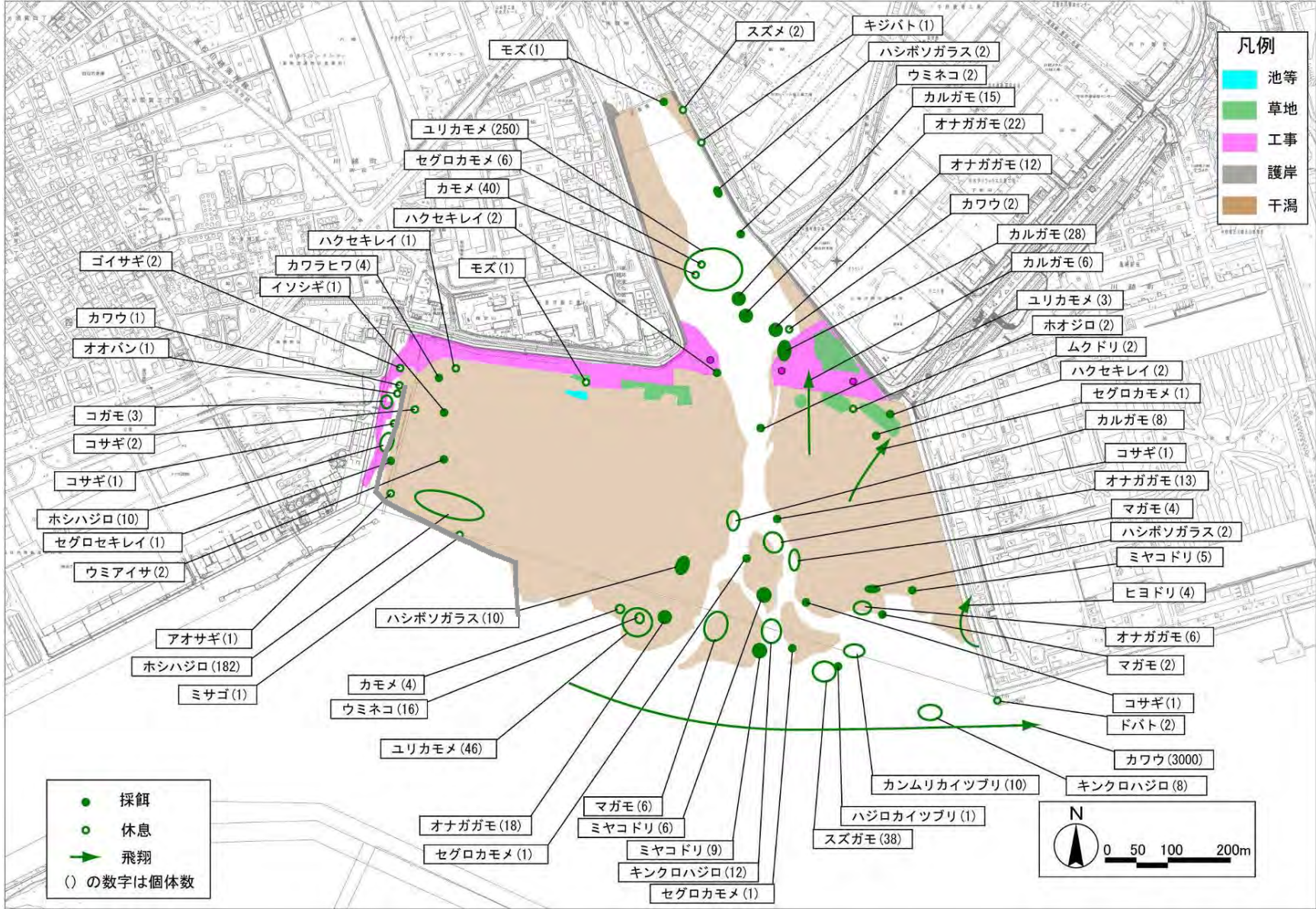


図 2.4.2.1(4) 鳥類確認位置 (平成28年度冬季)

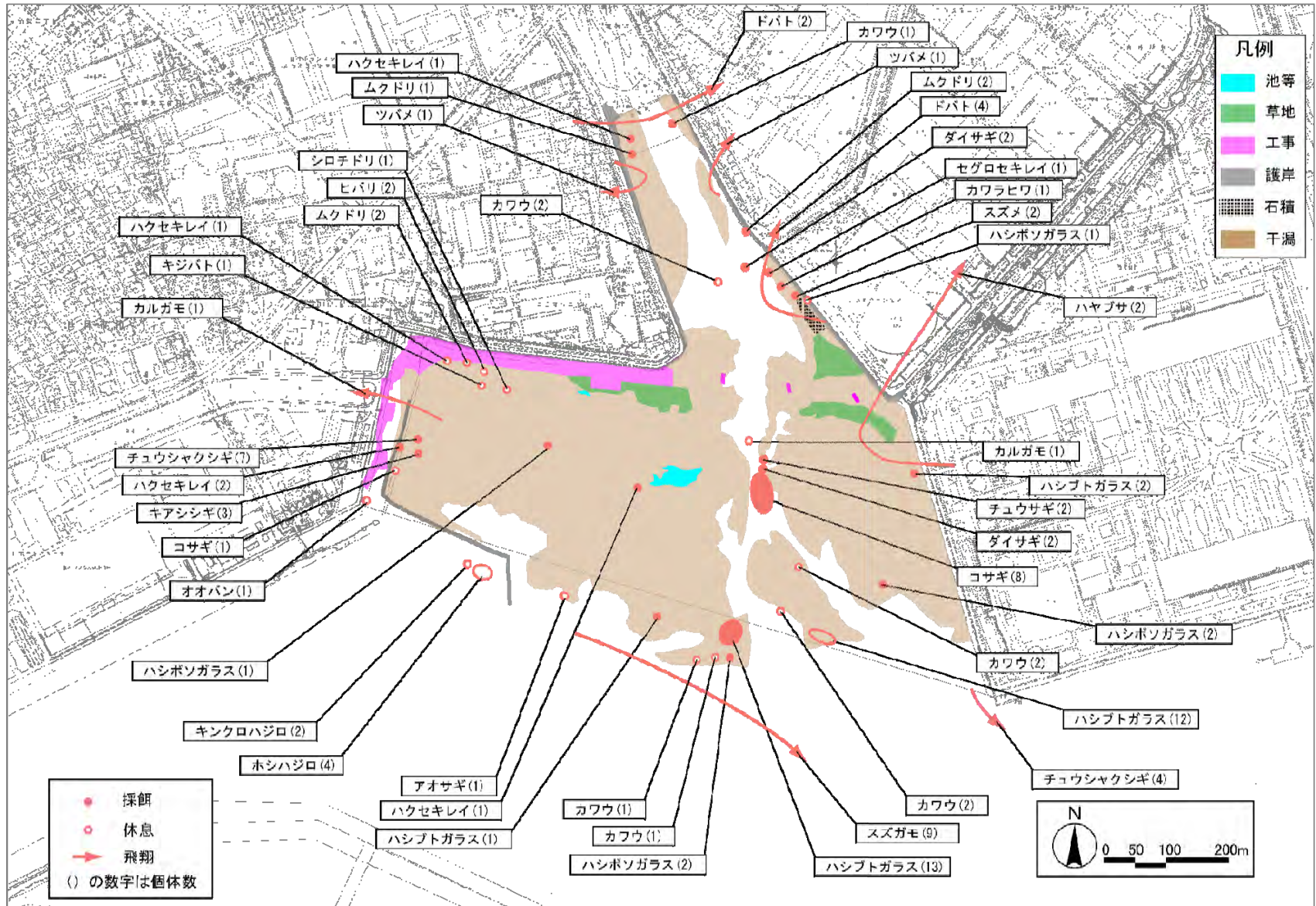


図 2.4.2.1(5) 鳥類確認位置 (平成 29 年度春季)

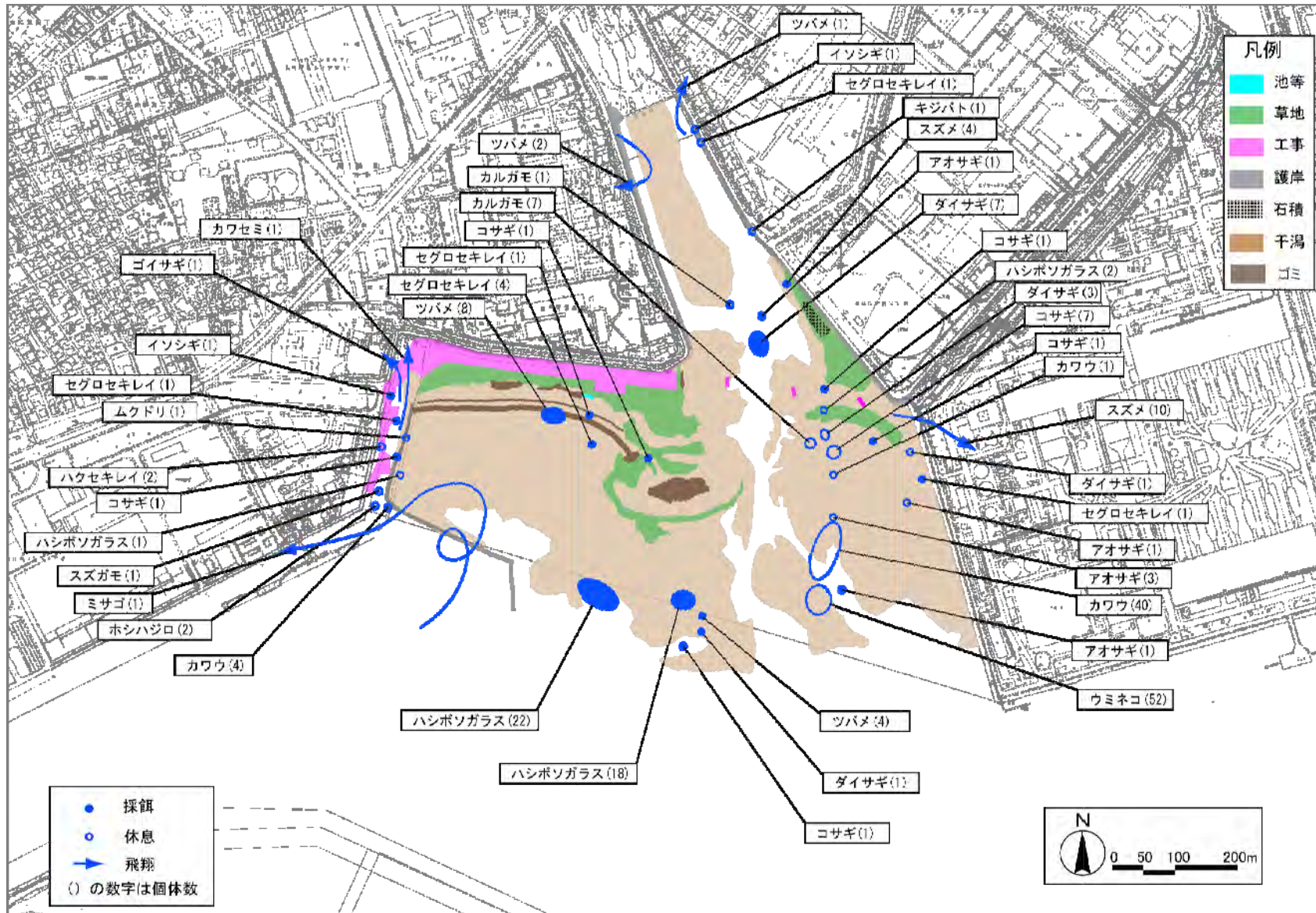


図 2.4.2.1(6) 鳥類確認位置 (平成 29 年度夏季)



### 2.4.3 鳥類目別出現状況

鳥類の目別種類数及び個体数は表 2.4.3.1、図 2.4.3.1 に示す。

目別の種類数は、4 季を通じてスズメ目が最も多く、平成 28 年度では春季は 10 種、夏季は 10 種類、秋季は 8 種、冬季は 9 種、平成 29 年度では春季は 9 種、夏季は 6 種が確認された。その他、カモ目、コウノトリ目も比較的多く確認された。

平成 28 年度春季の個体数は、スズメ目が 50 個体と最も多く、次いでペリカン目が 14 個体、チドリ目シギ科の 12 個体であった。

平成 28 年度夏季の個体数は、チドリ目カモメ科が 194 個体と最も多く、次いでコウノトリ目が 37 個体、スズメ目が 31 個体であった。

平成 28 年度秋季の個体数はカモメ目が 1205 個体と最も多く、次いでスズメ目が 87 個体、カモ目が 78 個体であった。

平成 28 年度冬季の個体数は、ペリカン目が 3003 個体と最も多く、次いで、カモ目が 395 個体、カモメ目が 370 個体であった。

平成 29 年度春季の個体数は、スズメ目が 52 個体と最も多く、次いでカモ目が 17 個体、コウノトリ目が 16 個体、チドリ目シギ科が 14 個体であった。

平成 29 年度夏季の個体数はスズメ目が 73 個体と最も多く、次いでチドリ目カモメ科が 52 個体、ペリカン目が 45 個体であった。

表 2.4.3.1 鳥類の目別種類数と個体数

	平成28年度								平成29年度				平均	
	春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季			
	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数
カモ目	3	8	3	7	4	78	8	395	4	17	3	11	4.2	86.0
カイツブリ目	0	0	0	0	1	1	2	11	0	0	0	0	0.5	2.0
ハト目	2	2	2	3	1	1	2	3	2	7	1	1	1.7	2.8
カツトドリ目	1	14	1	29	1	17	1	3003	1	9	1	45	1.0	519.5
ペリカン目	2	4	4	37	3	23	3	8	4	16	4	31	3.3	19.8
ツル目	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0.3	0.3
チドリ目チドリ科	1	2	1	1	2	15	0	0	1	1	0	0	0.8	3.2
チドリ目ミヤコトリ科	0	0	0	0	0	0	1	20	0	0	0	0	0.2	3.3
チドリ目シギ科	3	12	2	3	2	6	1	1	2	14	1	2	1.8	6.3
チドリ目カモメ科	0	0	1	194	3	1205	4	370	0	0	1	52	1.5	303.5
タカ目	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0.5	0.7
ブッポウソウ目	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3	0.3
ハヤブサ目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0.2	0.3
スズメ目	10	50	10	31	8	87	9	36	9	52	6	73	8.7	54.8
合計	22	92	25	306	26	1435	33	3849	25	119	19	217	25.0	1003.0

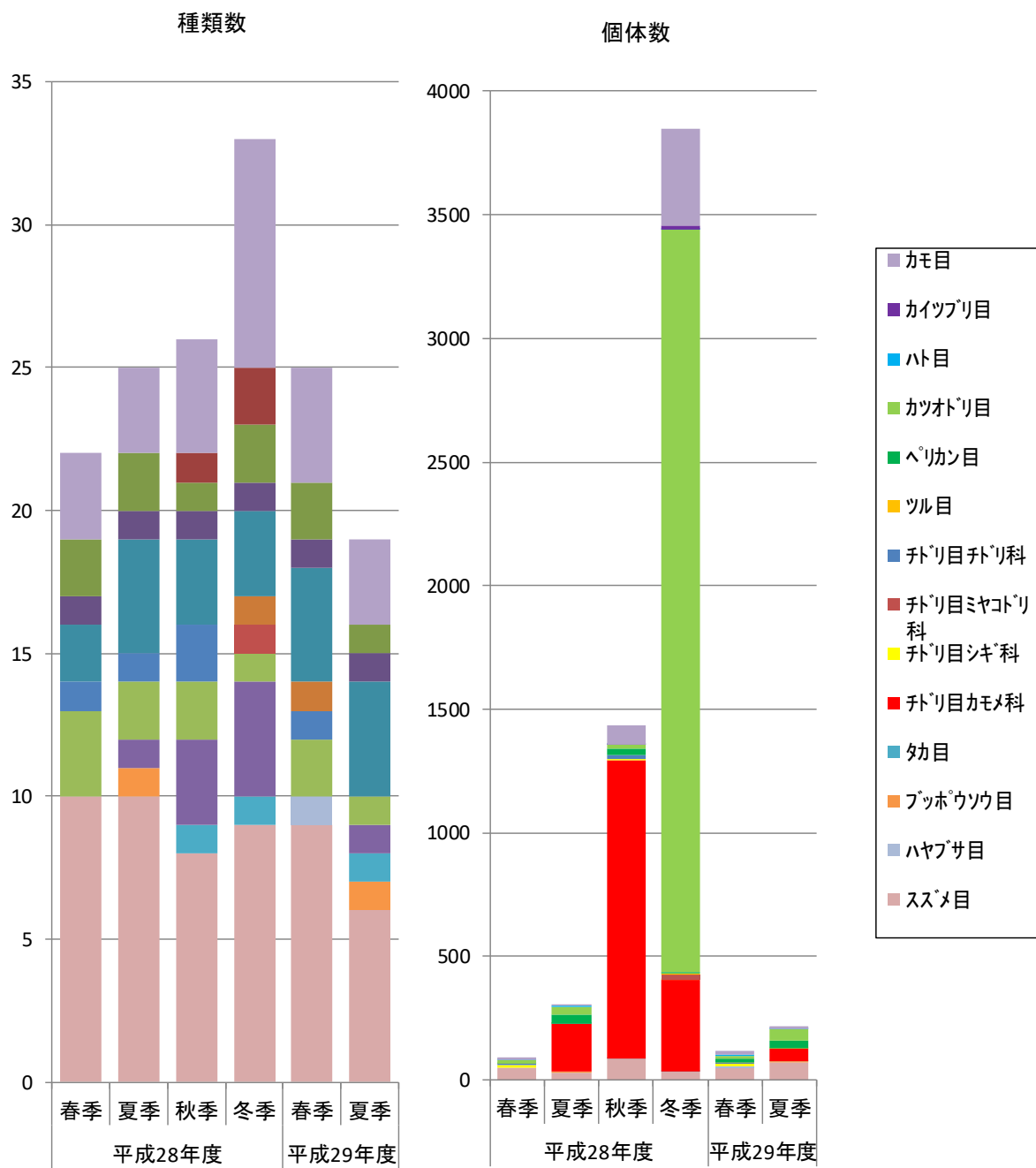


図 2.4.3.1 鳥類の目別種類数と個体数

## 2.4.4 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカモ目、カイツブリ目、ペリカン目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴ、干潟を利用する多数のハシボソガラスが確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、過年度の報告書に従い、食性に着目したグルーピングを行い、表 2.4.4.1 に示す 8 つのグループに区分した。

各グループの出現状況を次頁以降に示す。

表 2.4.4.1 干潟部を利用する鳥類のグループ区分

No.	構成種等	主な食性	現地確認種
1	カイツブリ類、 カワウ アジサシ類 ミサゴ	潜水や空中からのダイビングにより、主に魚を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カイツブリ</li> <li>・カンムリカイツブリ</li> <li>・ハジロカイツブリ</li> <li>・カワウ</li> <li>・ミサゴ</li> <li>・カワセミ</li> </ul>
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。 昆虫、エビ、カニ等広範。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴイサギ</li> <li>・アオサギ</li> <li>・ダイサギ</li> <li>・チュウサギ</li> <li>・コサギ</li> </ul>
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等を食べる。その他に水生昆虫、貝やエビ等。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マガモ</li> <li>・カルガモ</li> <li>・オナガガモ</li> <li>・コガモ</li> </ul>
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻等を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホシハジロ</li> <li>・キンクロハジロ</li> <li>・スズガモ</li> <li>・ウミアイサ</li> </ul>
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コチドリ</li> <li>・シロチドリ</li> <li>・ミヤコドリ</li> <li>・チュウシャクシギ</li> <li>・キアシシギ</li> <li>・ソリハシシギ</li> <li>・イソシギ</li> </ul>
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユリカモメ</li> <li>・ウミネコ</li> <li>・カモメ</li> <li>・セグロカモメ</li> </ul>
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクセキレイ</li> <li>・セグロセキレイ</li> </ul>
8	ハシボソガラス	雑食。草木の実や昆虫類、小動物等を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハシボソガラス</li> </ul>

### 1) カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴ

カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴは、朝明川河口部及び干潟汀線付近で多く確認された。

カンムリカイツブリは干潟汀線付近で休息していた。ハジロカイツブリは朝明川の中州で採餌していた。カワウは四季をとおして確認され、朝明川の河口及び中州で休息している個体が多くみられ、冬季は大きい群れが沖合を通過していた。ミサゴは干潟上空を飛翔していた。

表 2.4.4.2 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	カイツブリ	留鳥			1				1
2	ハジロカイツブリ	冬鳥				1			1
3	カンムリカイツブリ	冬鳥				10			10
4	カワウ	留鳥	14	29	17	3003	9	45	3117
5	ミサゴ	留鳥			2	1		1	4
6	カワセミ	留鳥		1				1	2



カワウ（冬季）



ミサゴ（夏季）

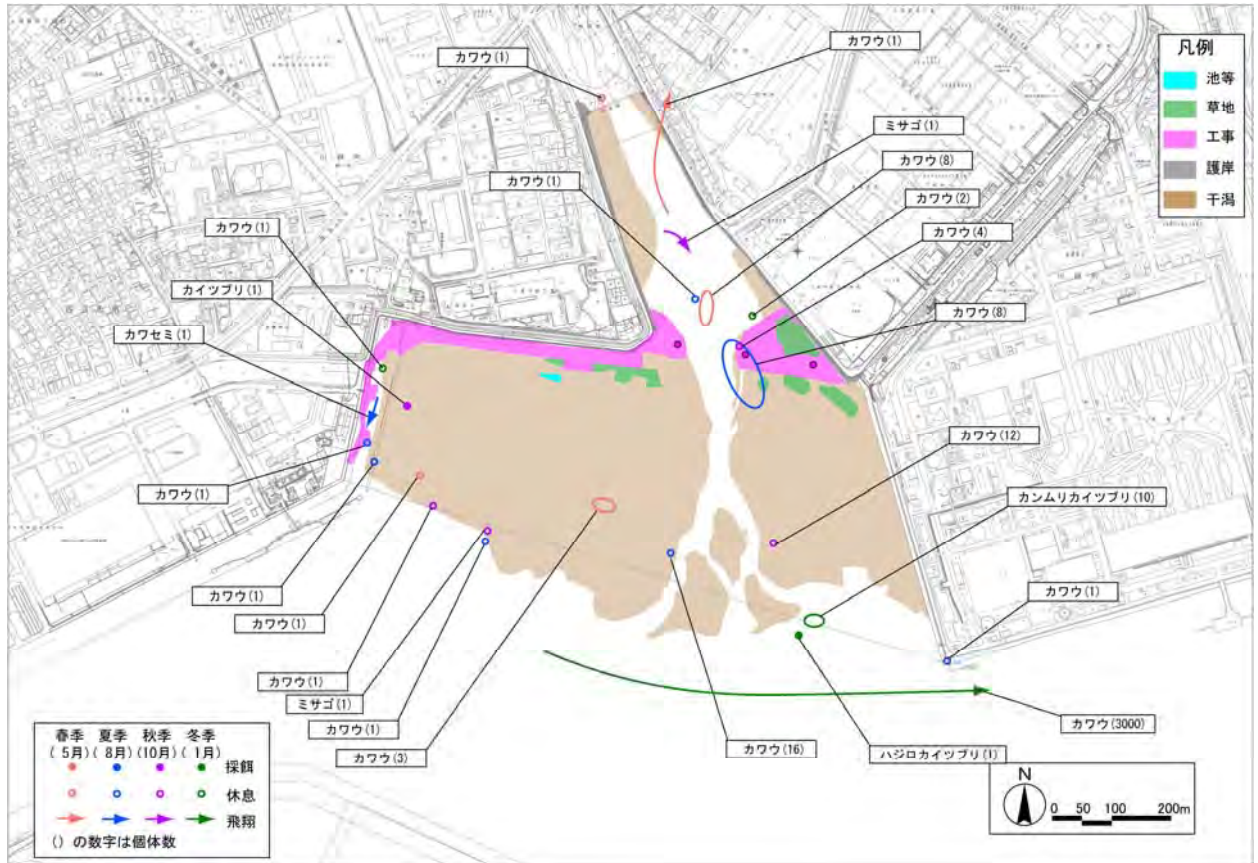


図 2.4(1) カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴの出現状況 (H28 年度)

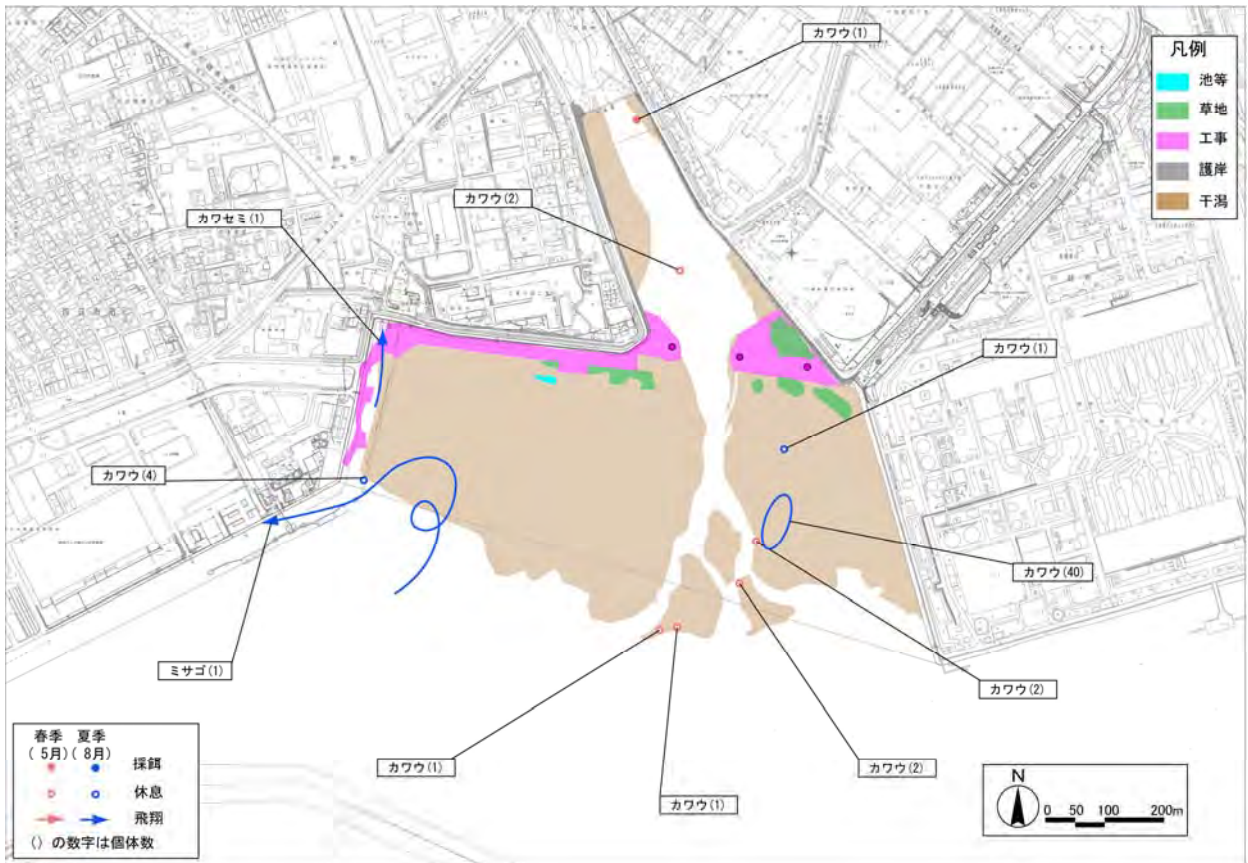


図 2.4(1) カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴの出現状況 (H29 年度)

## 2) サギ類

サギ類は朝明川の中州及び干潟部で多く確認された。ゴイサギは西側水路で休息していた。アオサギは干潟汀線部及び朝明川の中州で確認された。ダイサギは朝明川の中州及び河口部などで採餌及び休息する個体が多くみられた。チュウサギは夏季に朝明川の中州で休息していた。コサギは、6季を通して確認され、朝明川の中州や西側水路付近で休息する個体が見られた。

表 2.4.4.3 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ゴイサギ	留鳥				2		1	3
2	ダイサギ	留鳥	3	2	8		4	12	29
3	チュウサギ	留鳥		2			2		4
4	コサギ	留鳥	1	30	11	5	9	12	68
5	アオサギ	留鳥		3	4	1	1	6	15



アオサギ（秋季）



コサギ（冬季）

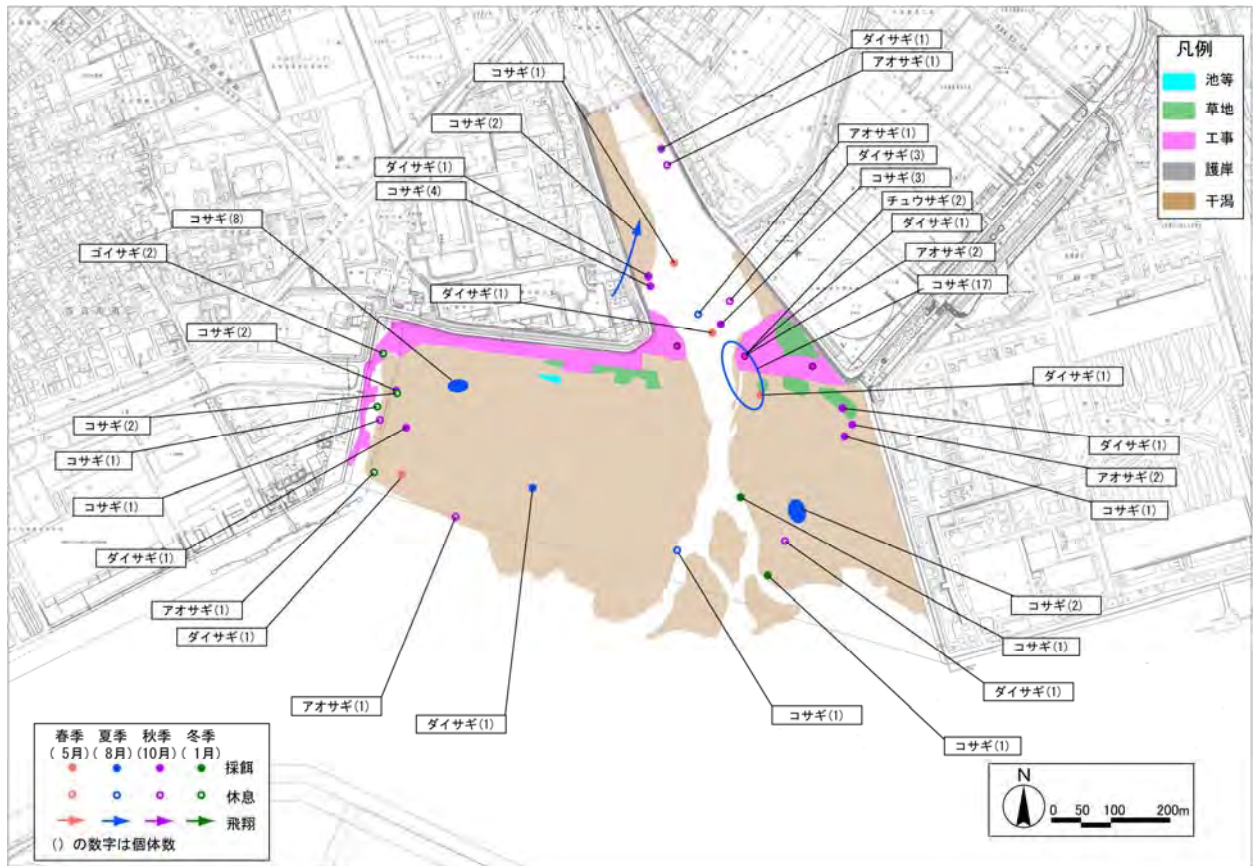


図 2.4.4.1(1) サギ類の出現状況 (H28 年度)

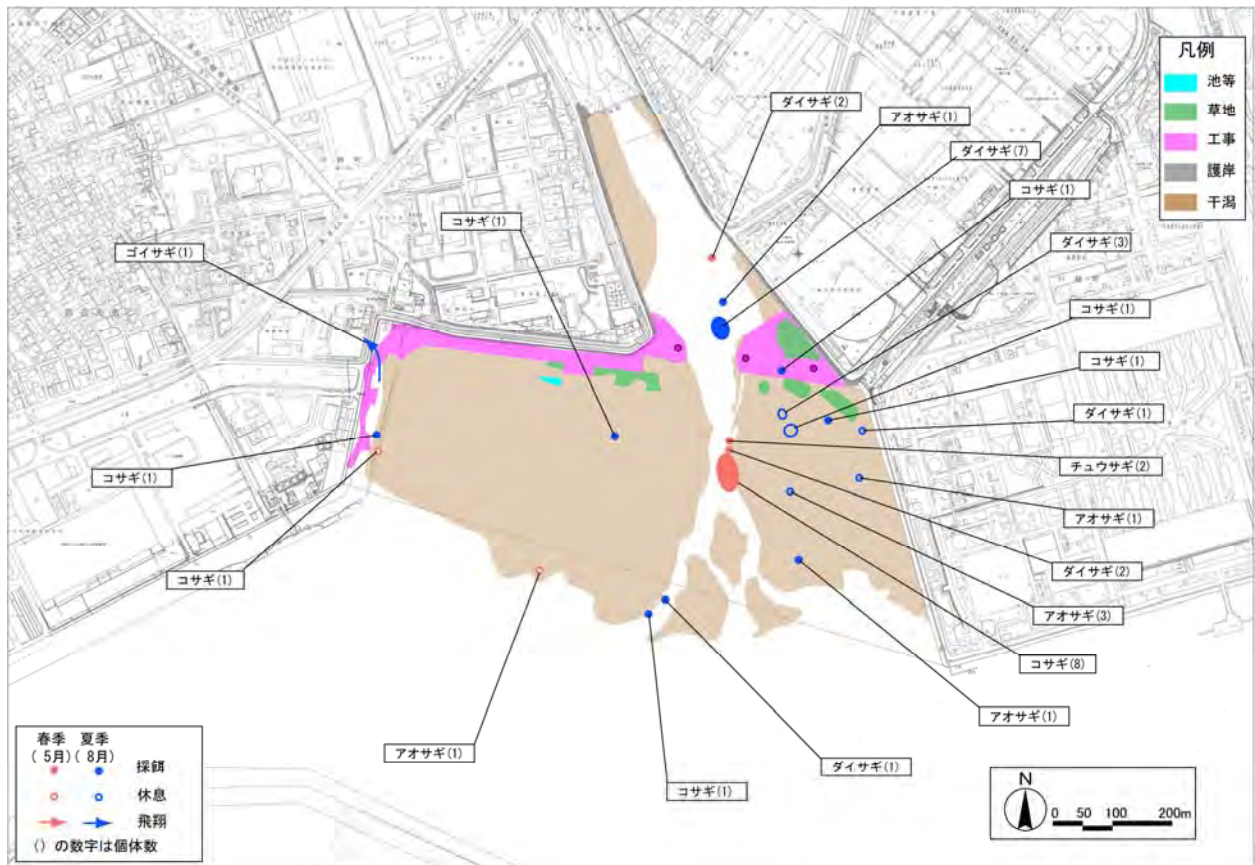


図 2.4.4.1(2) サギ類の出現状況 (H29 年度)

### 3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、カルガモが四季をとおして確認され、オナガガモは秋季と冬季に、その他の種は冬季にのみ確認された。

コガモは、西側水路で休息する個体を確認した。マガモ、カルガモ及びオナガガモは朝明川河口や中州で採餌及び休息している個体を多く確認した。

表 2.4.4.3 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	マガモ	冬鳥				12			12
2	カルガモ	留鳥	4	3	53	57	2	8	127
3	コガモ	冬鳥				3			3
4	オナガガモ	冬鳥			10	71			81



オナガガモ（冬季）



マガモ（冬季）



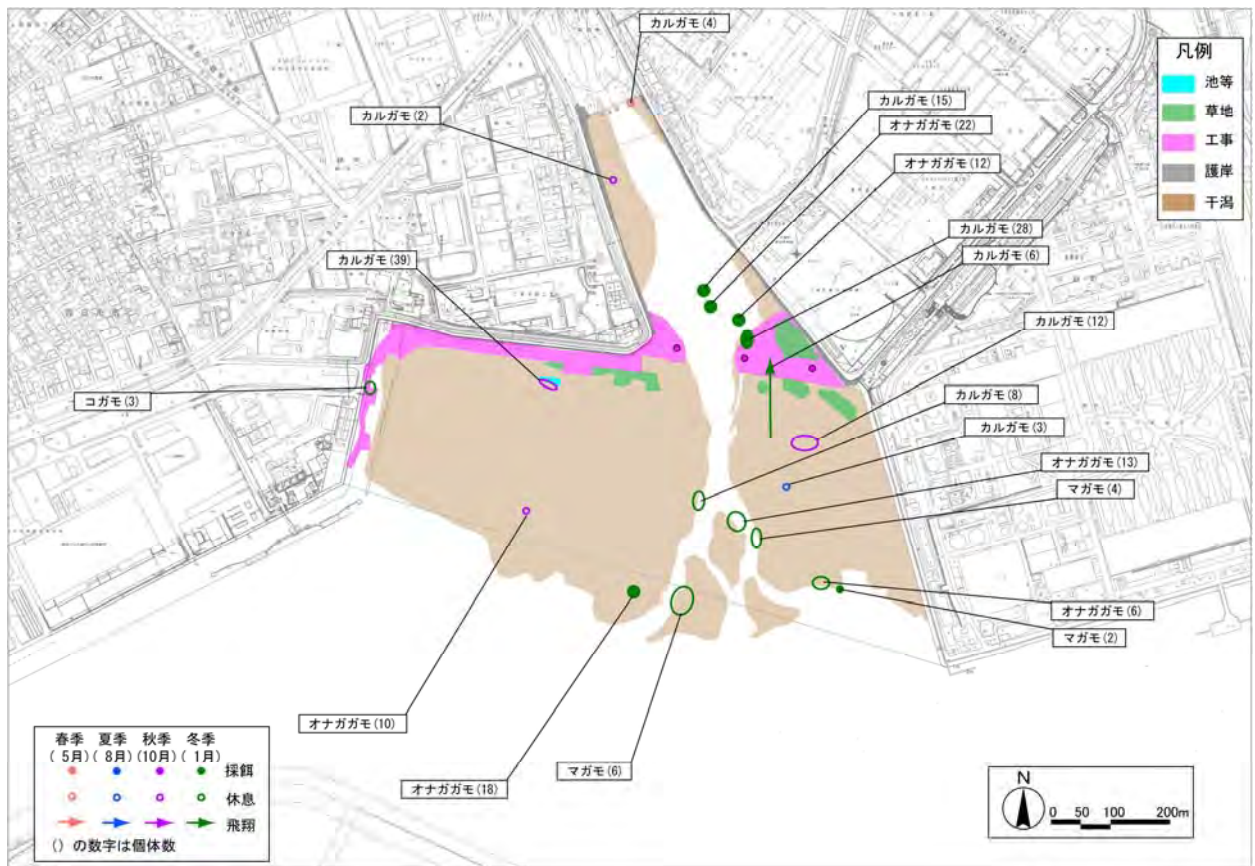


図 2.4.4.2(1) 陸ガモ類の出現状況 (H28 年度)

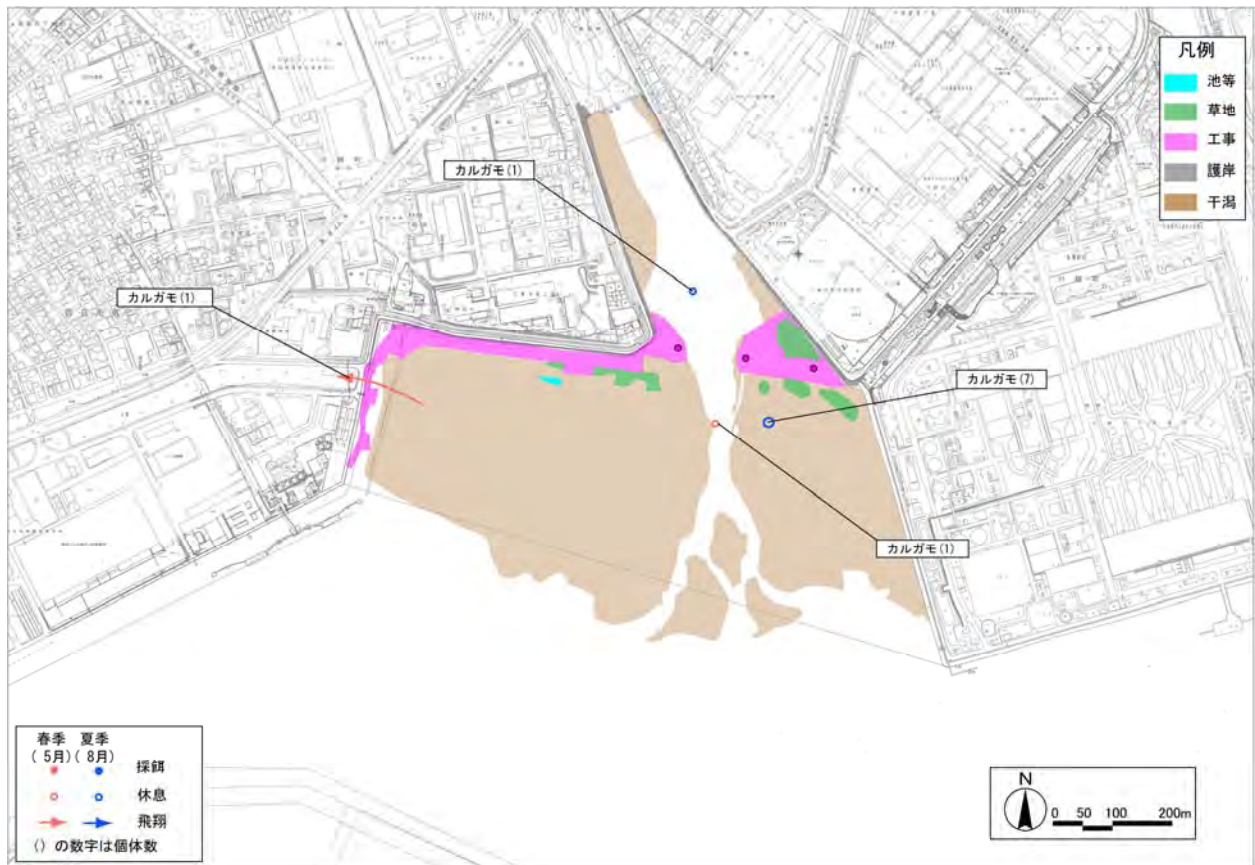


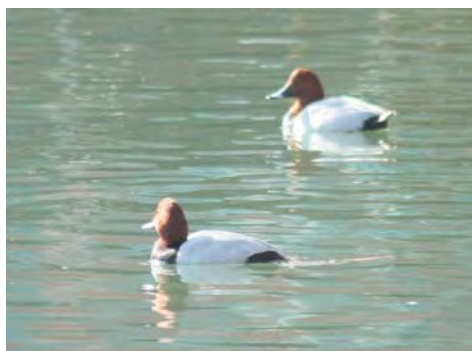
図 2.4.4.2(2) 陸ガモ類の出現状況 (H28 年度)

#### 4) 海ガモ類

海ガモ類の多くの個体は、冬季に確認された。ホシハジロ及びキンクロハジロは、朝明川の中州及び西側水路で休息する個体を多く確認した。スズガモは、朝明川河口および干潟部で休息していた。ウミアイサは、干潟部で採餌していた。

表 2.4.4.5 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ホシハジロ	冬鳥	2	3		192	4	2	203
2	キンクロハジロ	冬鳥	2	1	1	20	2		26
3	スズガモ	冬鳥			14	38	9	1	62
4	ウミアイサ	冬鳥				2			2



ホシハジロ (冬季)



スズガモ (秋季)

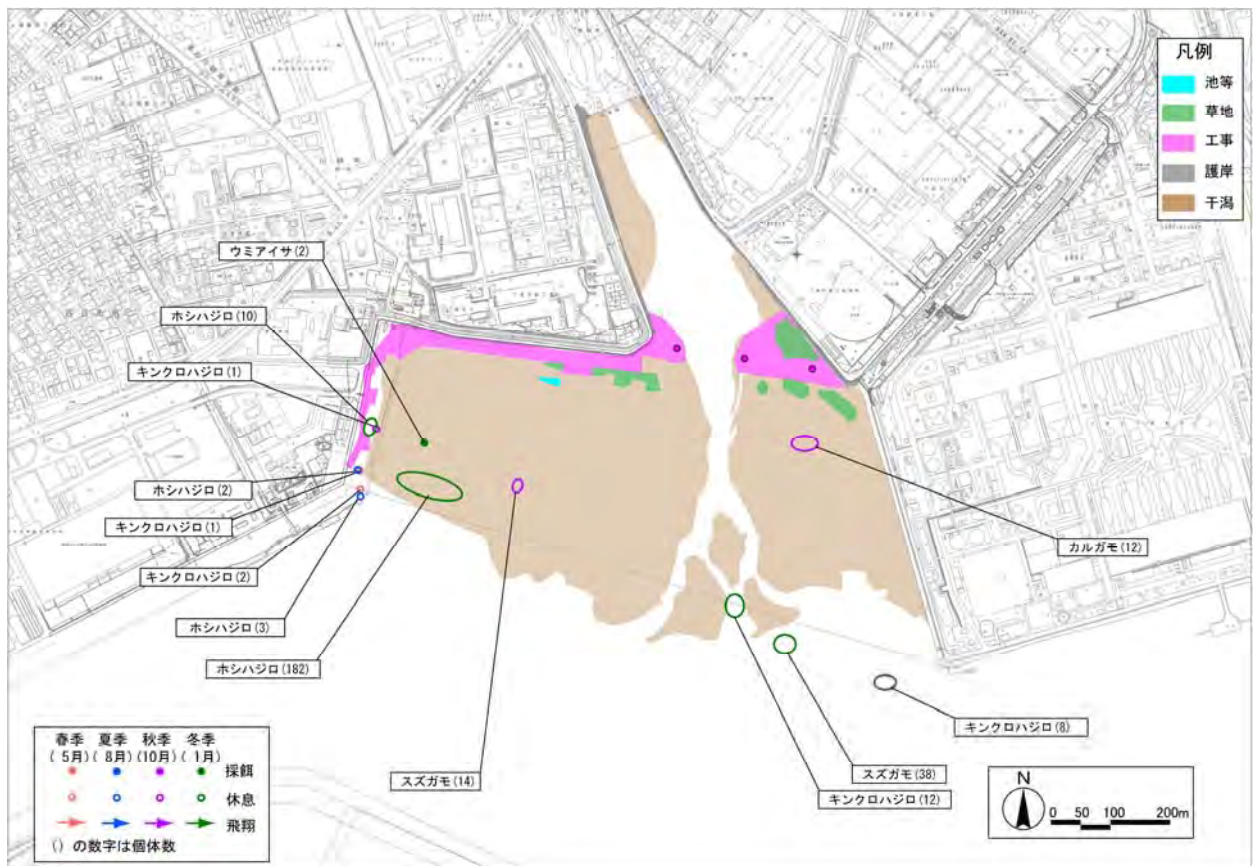


図 2.4.4.3(1) 海ガモ類の出現状況 (H28 年度)

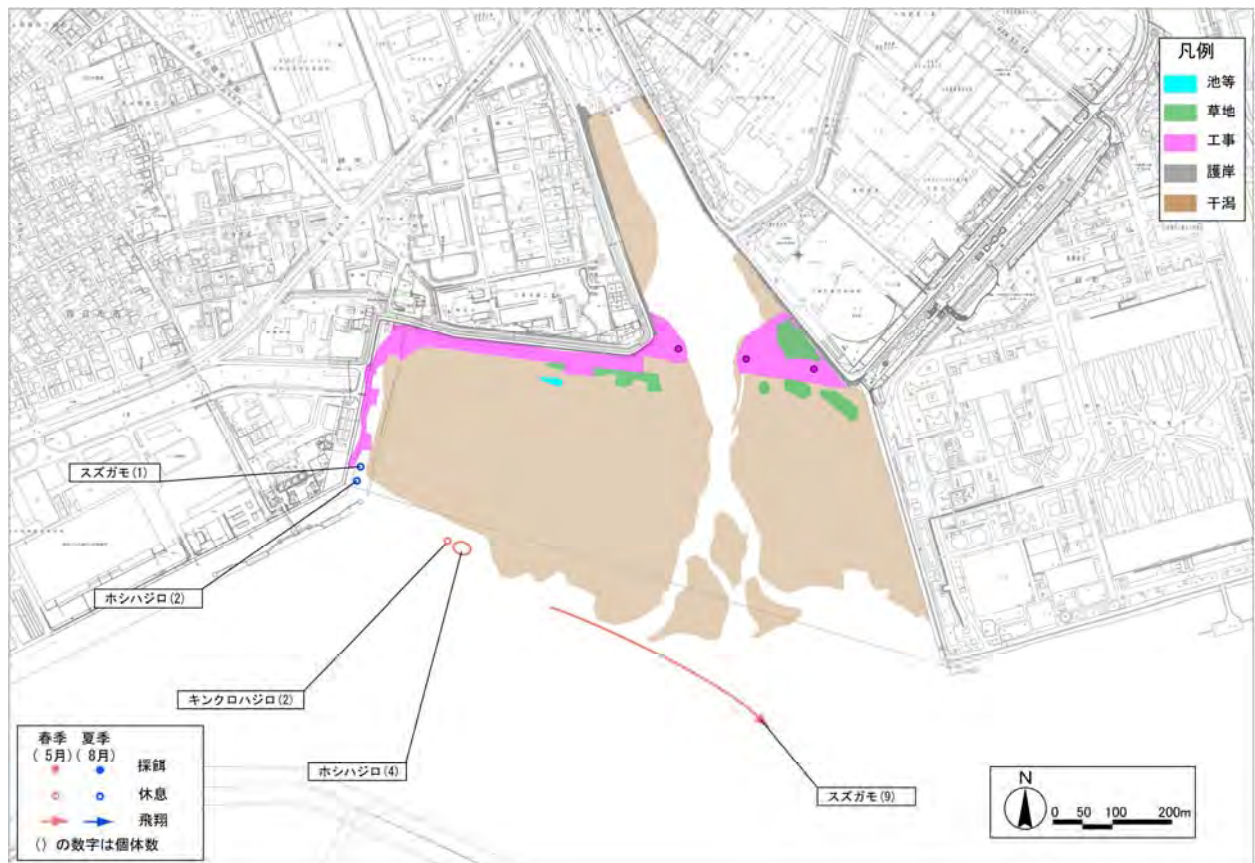


図 2.4.6.3(2) 海ガモ類の出現状況 (H29 年度)

## 5) シギ・チドリ類

シギ・チドリ類は朝明川の中州や朝明川河口の干潟部及び西側水路周辺で多く確認された。

ミヤコドリは朝明川河口部及び干潟部で採餌していた。シロチドリは干潟部で採餌していた。イソシギ、コチドリ、キアシシギ、チュウシャクシギ、ソリハシギは朝明川の中州や西側水路付近で採餌している個体が多かった。

表 2.4.4.6 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ミヤコドリ	冬鳥				20			20
2	コチドリ	夏鳥	2	1	1				4
3	シロチドリ	留鳥			14		1		15
4	キアシシギ	旅鳥	5	1			3		9
5	イソシギ	留鳥	2	2	4	1		2	11
6	ソリハシギ	旅鳥			2				2
7	チュウシャクシギ	旅鳥	5				11		16



キアシシギ（春季）



ミヤコドリ（冬季）

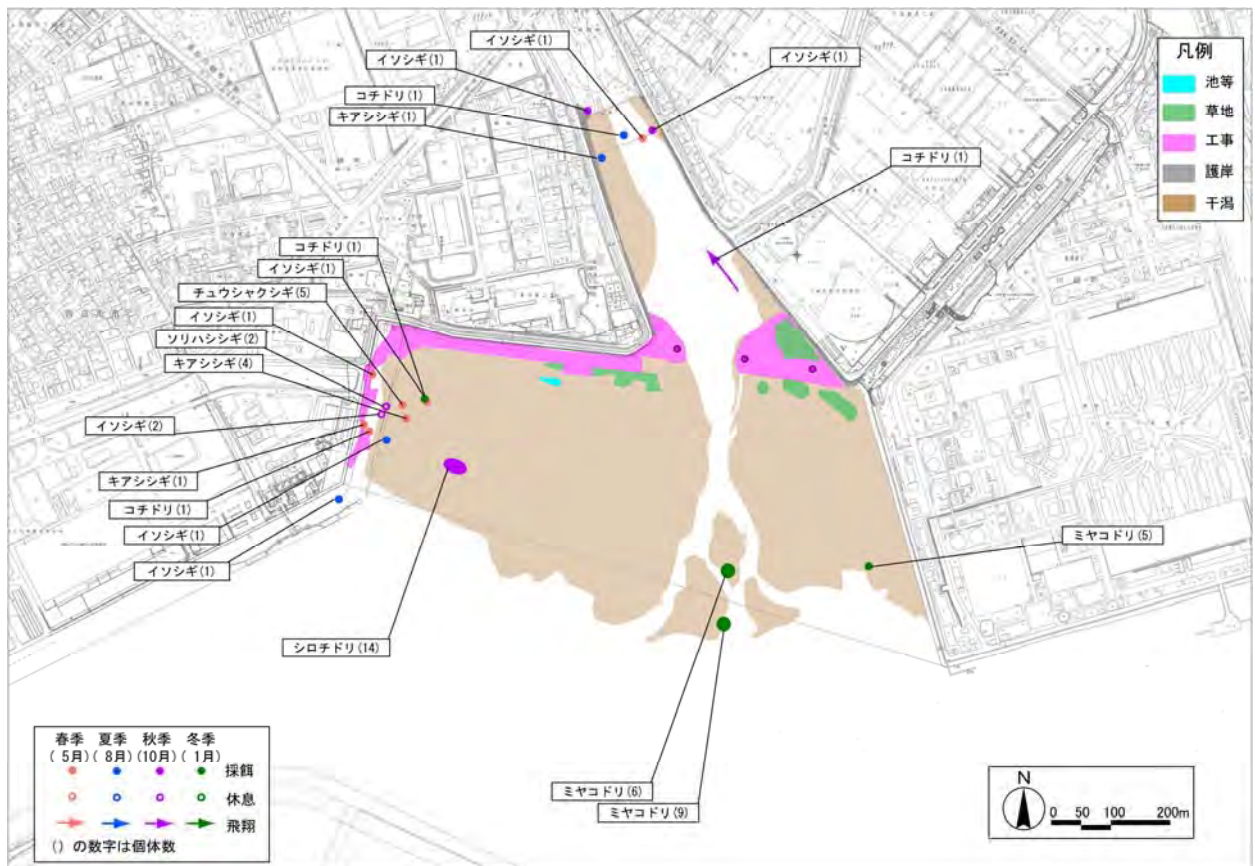


図 2.4.4.5(1) シギ・チドリ類の出現状況 (H28 年度)

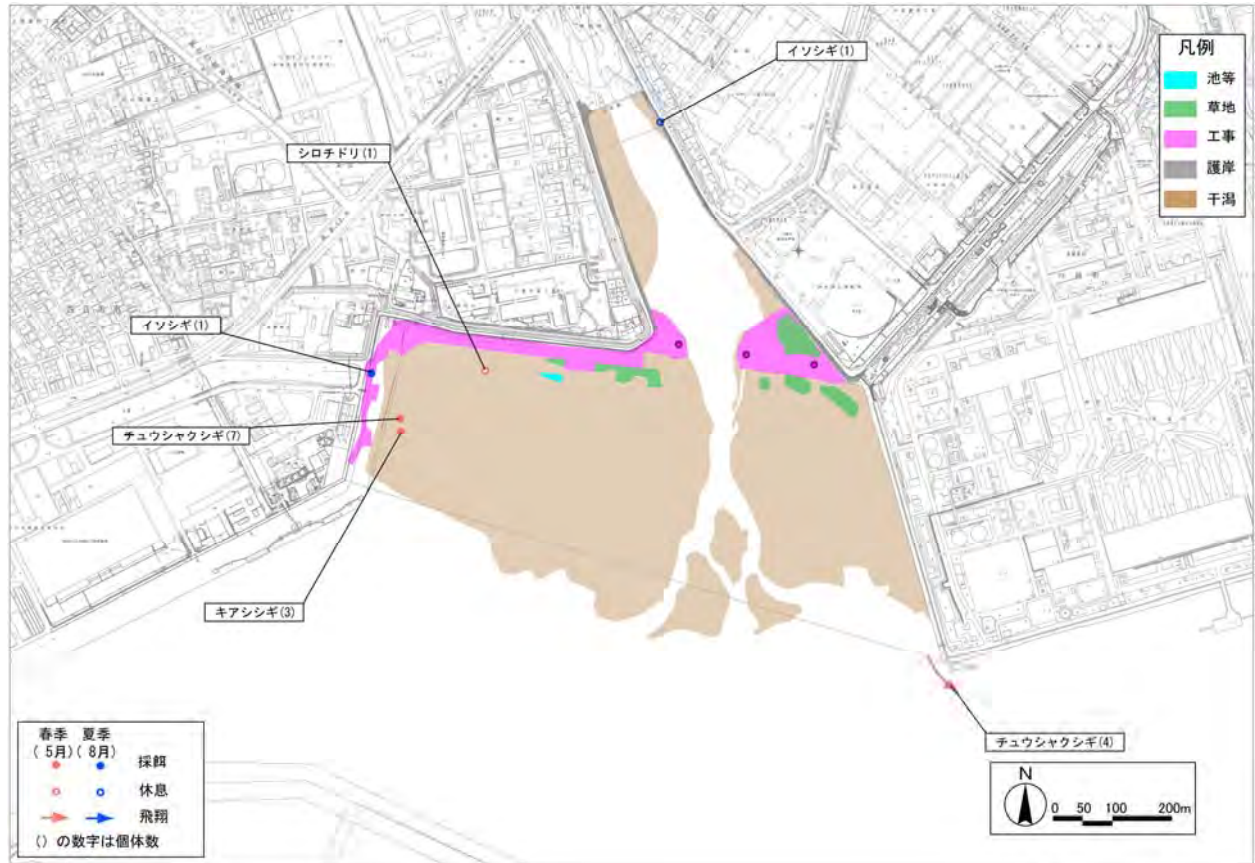


図 2.4.4.5(2) シギ・チドリ類の出現状況 (H29 年度)

## 6) カモメ類

カモメ類は、ウミネコが夏季から冬季に、ユリカモメとセグロカモメが秋季から冬季に、カモメは冬季にのみ確認された。

カモメ類は、朝明川の中州は河口部及び干潟部に広く分布して確認された。特に朝明川河口部の水際付近の干潟で休息している個体を多く確認した。

表 2.4.4.7 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ユリカモメ	冬鳥			9	299			308
2	セグロカモメ	冬鳥			4	9			13
3	カモメ	冬鳥				44			44
4	ウミネコ	留鳥		194	1192	18		52	1456



カモメ（冬季）



セグロカモメ（冬季）

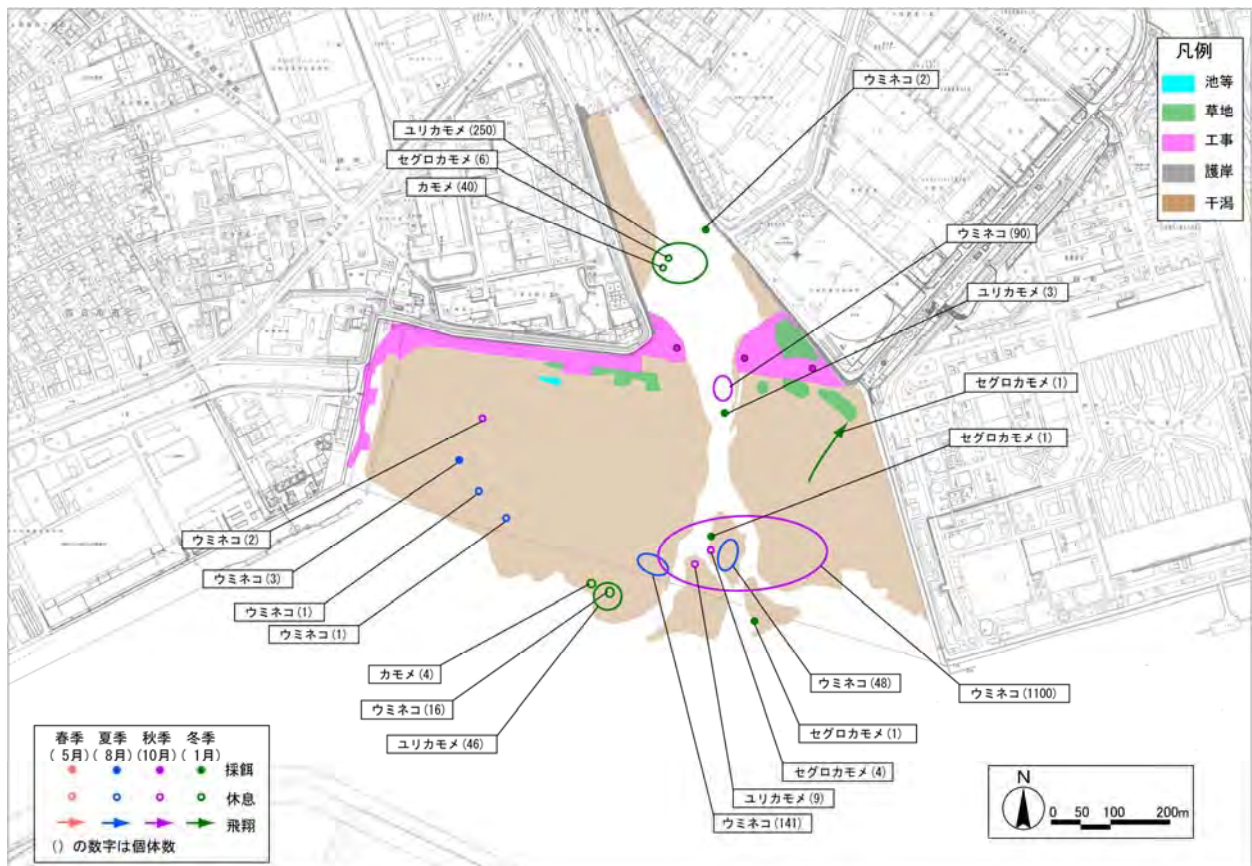


図 2.4.4.6(1) カモメ類の出現状況 (H28 年度)



図 2.4.4.6(2) カモメ類の出現状況 (H29 年度)

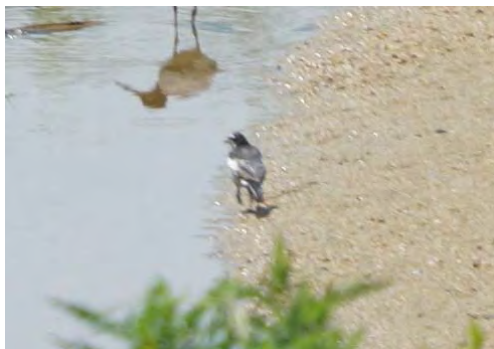
## 7) セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイ、セグロセキレイの2種が確認され、それぞれハクセキレイは春季、セグロセキレイは秋季を除いた3季に確認された。

セキレイ類は朝明川の中州、西側水路などで採餌及び休息する個体を確認した。

表 2.4.4.8 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り 区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ハクセキレイ	留鳥		1	6	5	5	2	19
2	セグロセキレイ	留鳥	4	1		1	1	8	15



セグロセキレイ（夏季）



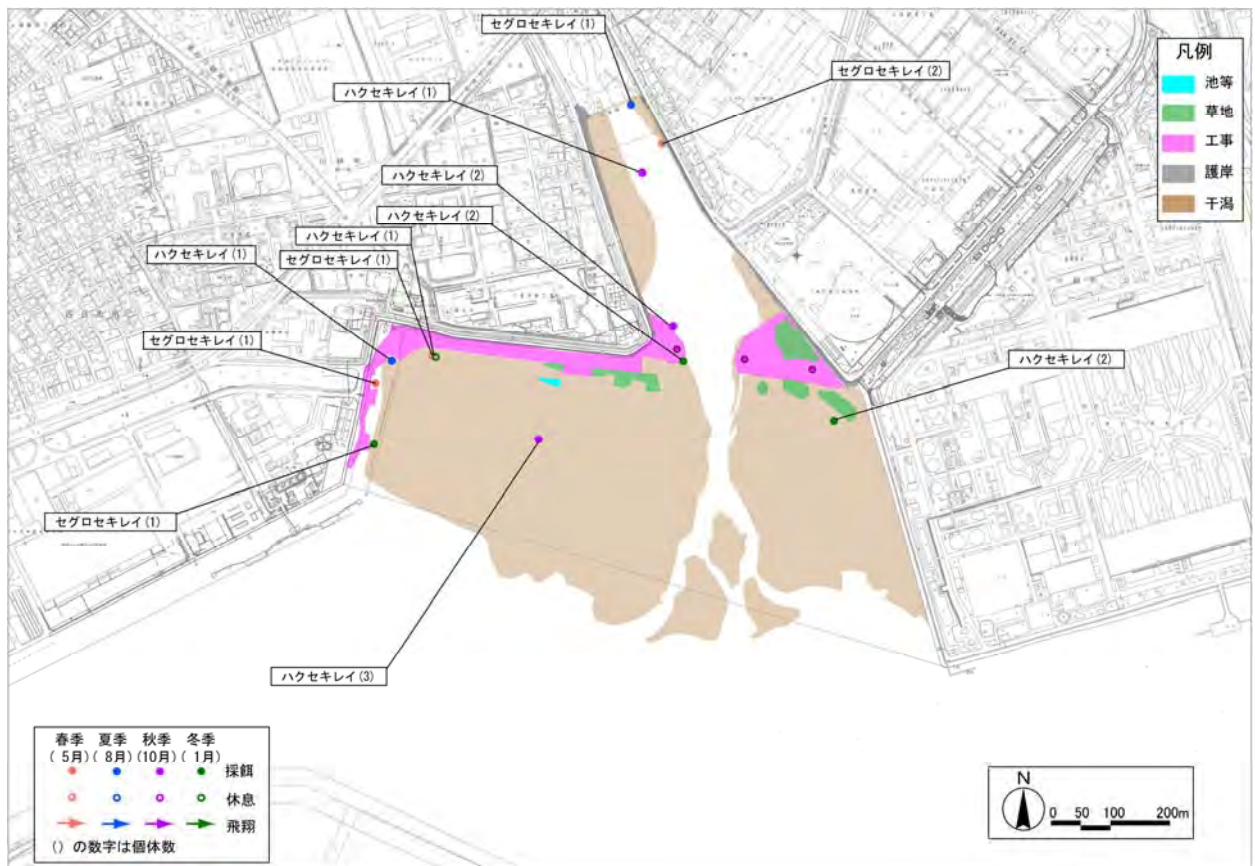


図 2.4.4.7(1) セキレイ類の出現状況 (H28 年度)

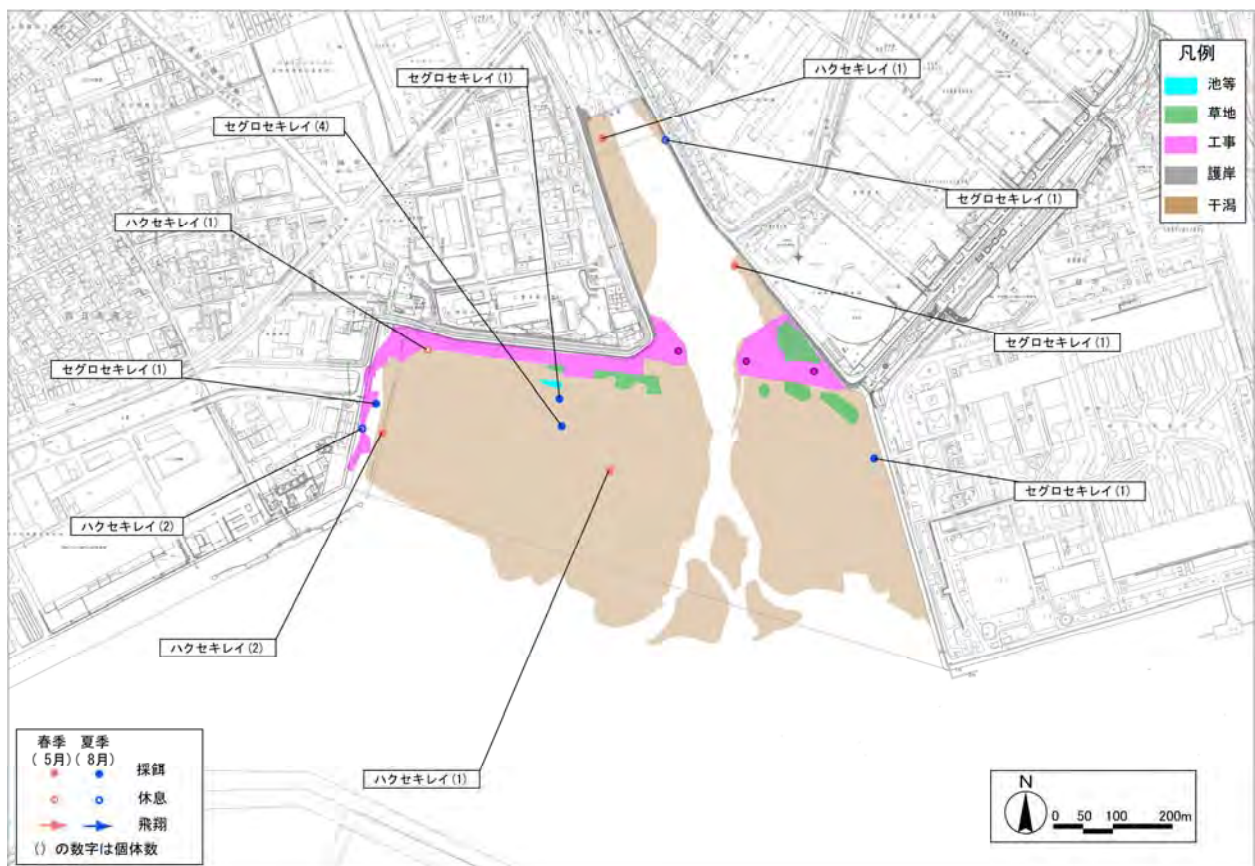


図 2.4.4.7(2) セキレイ類の出現状況 (H29 年度)

## 8) ハシボソガラス

ハシボソガラスは、四季をとおして確認された。

ハシボソガラスの多くの個体が干潟部に集まり、潮干狩りで掘り起こされた場所等で採餌していた。

表 2.4.4.9 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り 区分	平成28年度				平成29年度		合計
			春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
			5月	8月	10月	1月	5月	8月	
1	ハシボソガラス	留鳥	27	9	14	14	6	33	103



ハシボソガラス（春季）

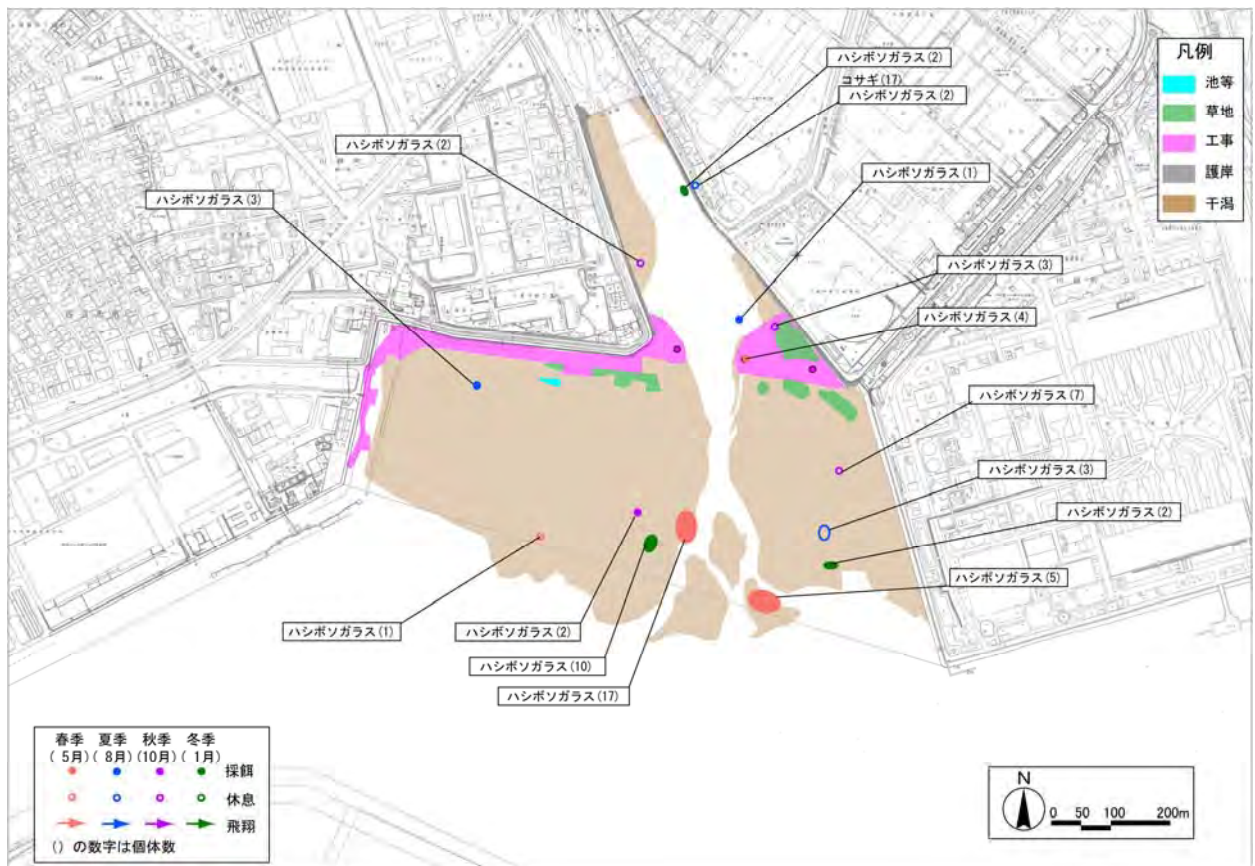


図 2.4.4.8 (1) ハシボソガラスの出現状況 (H28 年度)

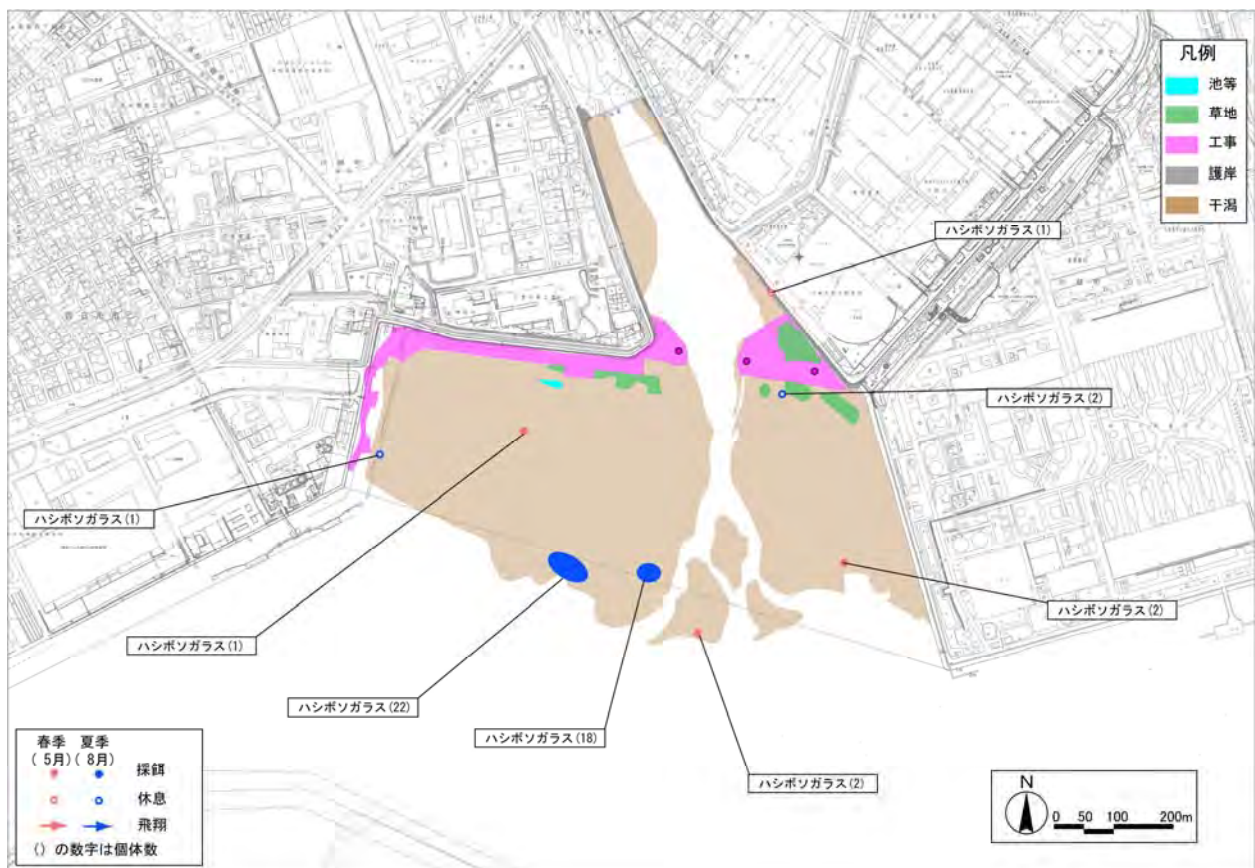


図 2.4.4.8 (2) ハシボソガラスの出現状況 (H29 年度)

## 2.4.5 重要種の確認状況

鳥類の重要種としては表 2.4.2.1 に示すように、平成 28 年度は春季 5 種、夏季 5 種、秋季 5 種、冬季 4 種、平成 29 年度は春季 5 種、夏季 3 種の延べ 13 種が該当した。

各重要種の確認状況を以下に示す。

- ①ウミアイサ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（越冬个体群））  
平成 28 年度冬季に干潟西部で採餌中の 2 個体を確認した。
- ②チュウサギ（環境省 RL の準絶滅危惧種 NT、三重 RDB の絶滅危惧 II 類 VU、近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（繁殖个体群））  
平成 28 年度夏季に河口部で休息中の 2 個体、平成 29 年度春季に河口部で採餌中の 2 個体を確認した。
- ③コチドリ（三重 RDB の準絶滅危惧種 NT、近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（繁殖个体群））  
平成 28 年度春季に干潟西部で採餌中の 2 個体が、夏季に河川部で採餌中の 1 個体が、秋季に河口部で飛行中の 1 個体が確認された。
- ④シロチドリ（環境省 RL の絶滅危惧 II 類 VU、三重 RDB の準絶滅危惧種 NT（越冬））  
平成 28 年度秋季に干潟西部で採餌中の 14 個体、平成 29 年度春季に干潟西部で休息中の 1 個体が確認された。
- ⑤ミヤコドリ（環境省 RL の準絶滅危惧種 NT、三重 RDB の準絶滅危惧種 NT）  
平成 28 年度冬季に干潟沖側で採餌中の 20 個体を確認した。
- ⑥チュウシャクシギ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（通過个体群））  
平成 28 年度春季に干潟西部で採餌中の 5 個体が、平成 29 年度春季に干潟西部で採餌中の 7 個体と沖側東部の上空を飛行する 4 個体の計 11 個体が確認された。
- ⑦キアシシギ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（通過个体群））  
平成 28 年度春季に干潟西部で採餌中の 5 個体が、夏季に河川部で採餌中の 1 個体が、平成 29 年度春季に干潟西部で採餌中の 3 個体が確認された。
- ⑧ソリハシシギ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（通過个体群））  
平成 28 年度秋季に干潟西部で休息中の 2 個体が確認された。
- ⑨イソシギ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（繁殖个体群））  
平成 28 年度春季に干潟西部と河川部で採餌中の各 1 個体計 2 個体が、夏季に干潟西部で採餌中の 2 個体が、秋季に干潟西部で休息中の 2 個体と河川部で採餌中の 2 個体の計 4 個体、冬季に干潟西部で採餌中の 1 個体が確認された。また、平成 29 年度夏季に干潟西部で採餌中の 1 個体と河川部で休息中の 1 個体が確認された。
- ⑩ミサゴ（環境省 RL の準絶滅危惧種 NT、三重 RDB の準絶滅危惧 VU）  
平成 28 年度秋季に河口部で採餌飛行中の 1 個体、干潟西部沖側で休息中の 1 個体の計 2 個体、冬季に干潟西部沖側で休息中の 1 個体、平成 29 年夏季に干潟上空で採餌飛行中の 1 個体を確認した。
- ⑪カワセミ（近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（繁殖个体群））  
平成 28 年度夏季と平成 29 年度夏季に、それぞれ干潟西部を飛行中の 1 個体が確認された。
- ⑫ハヤブサ（環境省 RL の絶滅危惧 II 類 VU、三重 RDB の絶滅危惧 IA 類 CR（繁殖）、近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧（繁殖个体群））

平成 29 年度春季に干潟東部上空を飛翔する 2 個体を確認した。  
⑬オオヨシキリ(近畿地区・鳥類レッドデータブックの準絶滅危惧(繁殖個体群))  
平成 28 年度春季に河口部左岸の植生帯で採餌中の 1 個体が確認された。



ウミアイサ



コチドリ



シロチドリ



ミヤコドリ



チュウシャクシギ



キアシシギ



ソリハシシギ



イツシギ



ミサゴ